Ｎｏ．７（2006 年 1 月 11 日）

非鉄金属レポート

◆ロンドン金属取引所（ＬＭＥ：London Metal Exchange）～2005 年 12 月の動向

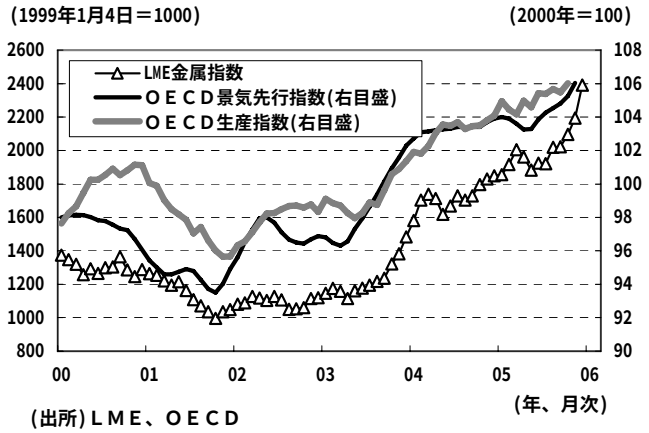
【概況】

12 月の非鉄金属市況は総じて上昇基調で推移し、亜鉛が史上最高値を更新、アルミニウムは 17 年ぶりの高値に上昇し、ニッケルも上昇が続き、銅はもみ合い後に高値を更新した。非鉄市況全般の動向を表わすＬＭＥ金属指数の動きをみると、高値更新が続き、12 月 1 日の 2347.6 から 1 月 9 日には 2494.0 まで大幅に上昇した。

12 月の非鉄金属市況が上昇基調で推移した背景には、中国を中心とした新興国の高成長が続いており、先進国でも米国に加え、欧州や日本の景気回復の持続が見込まれていることがある。これまで非鉄相場の上昇を主導してきた銅は騰勢が鈍化しているが、中国を中心に家電製品などのメッキ向け需要が期待できる亜鉛や、欧米の精錬所閉鎖に続き中国の減産が報じられたアルミニウムは上昇を続け、中長期的には需要が増加を続けるとみられるニッケルも春以降の調整局面は脱したとみられる。

当面の相場動向を考えると、需給にタイト感が出ているアルミニウムや亜鉛は引き続き上昇が見込まれる。ニッケルも、足元の在庫増が弱材料であるが、中長期的な需要増加見通しを背景に底堅いと思われる。一方、これまで騰勢が続いていた銅相場は上昇ペースが鈍る可能性がある。

図表１．ＬＭＥ金属指数と世界景気



(出所)ＬＭＥ、ＯＥＣＤ

図表２．ＬＭＥ金属指数(日次データ)

(注)アルミ、銅、鉛、ニッケル、スズ、亜鉛の市況の加重平均
(出所)London Metal Exchange

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
調査部
【お問合せ先】　芥田（E-mail：tomomichi.akuta@murc.jp）

【品目別の動向】

①銅～　もみ合い後、ストを材料に高値更新

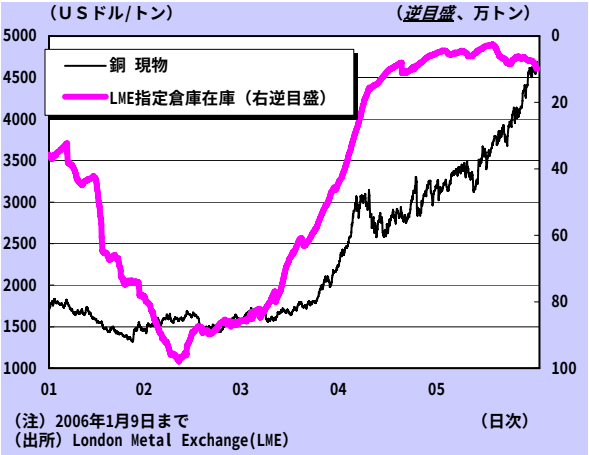
12 月の銅相場は、初旬は、中国の国家備蓄局が多額の売りポジションを買い戻すとの思惑やチリでのストライキを材料に騰勢が続いたが、中旬になると、米国景気の減速懸念や高値による需要減退観測も出てもみ合いとなった。中国備蓄局の売りポジションの決済日とされた 12 月 21 日の相場も大きな変動はなかったため、問題の売りポジションは、買い戻し、現物納入、現金決済、ロールオーバーなどにより分散されて処理されたものとして、市場の関心は離れつつある。

28 日には、チリの世界最大の銅生産会社の労働者によるストライキを材料に相場は大幅に上昇し、史上最高値を更新した。1 月に入ってもストは続き、銅相場は上昇を続けている。

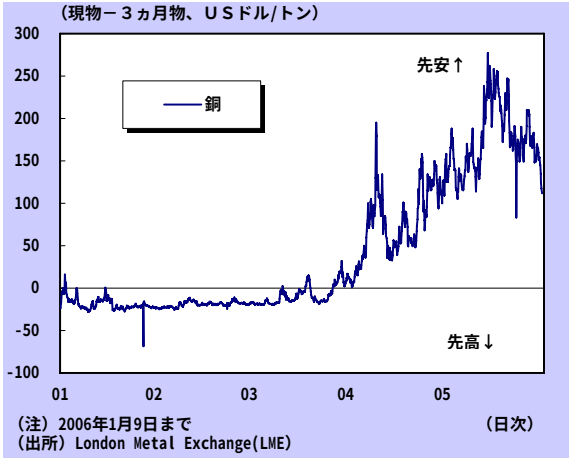
ただし、銅の在庫は、7 月をボトムに、各地でのストライキや事故による供給制約が解消されるにつれ、緩やかに増加に転じてきている。高成長を続ける中国に加えて、先進国の需要も持ち直すとの観測も出ているが、チリのストライキが終結すれば、需給は緩和する可能性がある。

図表３．銅

現物価格とＬＭＥ指定倉庫在庫の推移



現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



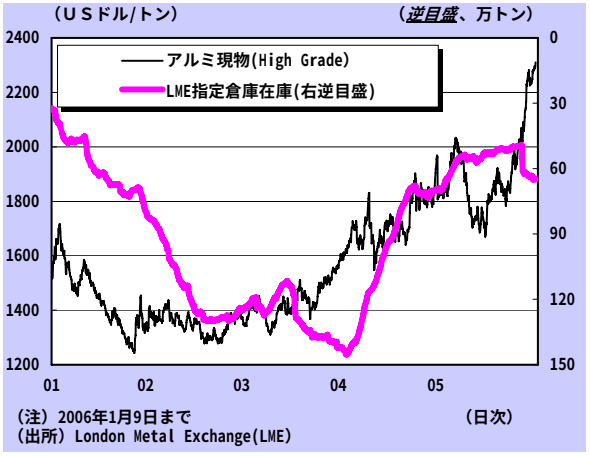
②アルミニウム ～ 17 年ぶりの高値に続伸

アルミニウム相場は、12 月も続伸し、足元は 17 年ぶりの高値にある。欧州や米国の精錬所の閉鎖が相次いだことに加え、12 月初めに中国のアルミニウム精錬 23 社が 10%の減産に合意しており、供給不足感が生じつつある。精錬所の閉鎖や減産の背景には、精錬コストの 30～40%を占めるとされる電力料金の大幅上昇や原材料であるアルミナの価格高騰がある。

エネルギー価格の高止まりにより、電力料金高は当面、続くと考えられ、コスト面からアルミニウム価格を押し上げる一方で、飲料用の缶、窓のサッシ、自動車、航空機向けの需要は拡大が続いている。特に中国の需要は今後も速いペースで拡大すると見込まれており、アルミニウム相場は当面、堅調が見込まれる。なお、中国は、原材料のアルミナ価格抑制のため、アルミニウム精錬能力を 33.5 万トン削減すると発表している。

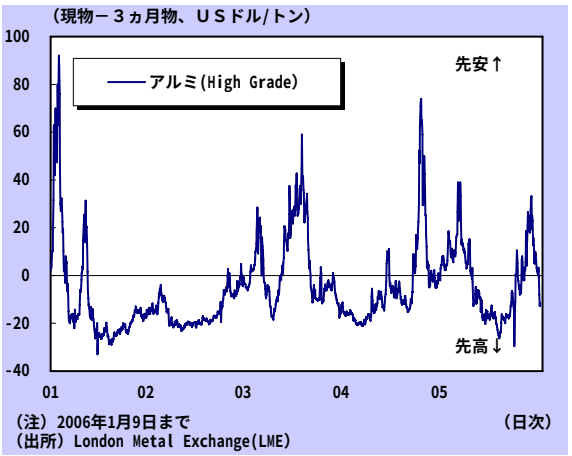
図表４．アルミニウム

現物価格とＬＭＥ指定倉庫在庫の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

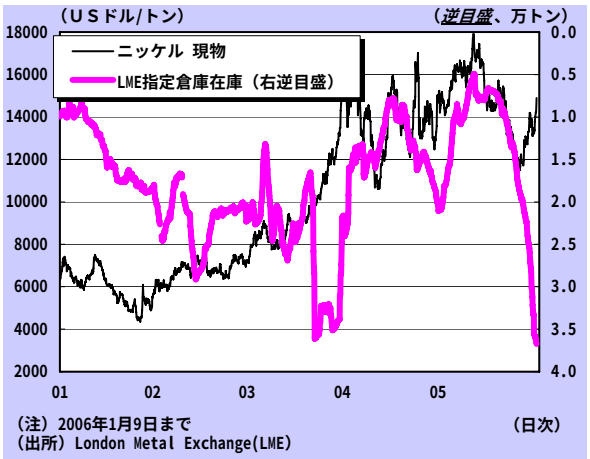
③ニッケル～下げ止まりから反発

ニッケル相場は、11 月 3 日をボトムに上昇に転じてきている。ニッケル需要の 3 分の 2 を占めるステンレス鋼の減産により需給が悪化している状況が続いていたが、世界景気の回復期待や他金属の価格上昇と比べた出遅れ感などから、相場は反発に転じた。12 月半ば以降は、在庫増加を嫌気して、相場は調整気味に推移したが、1 月に入って相場は急伸している。

相場急伸の背景には、主用途であるステンレス鋼向けの需要が中国を中心に中長期的に増加を続けると見込まれるなか、欧州の需要が回復する兆しが出てきたことがある。また、これまで生産が縮小されていたニッケルを多く含むタイプのステンレスが今後、増産されるとの見方も出ている。今後の相場は、足元で在庫が急増していることが抑制要因となる可能性があるものの、中長期的な需要増加観測を背景に底堅い推移が見込まれる。

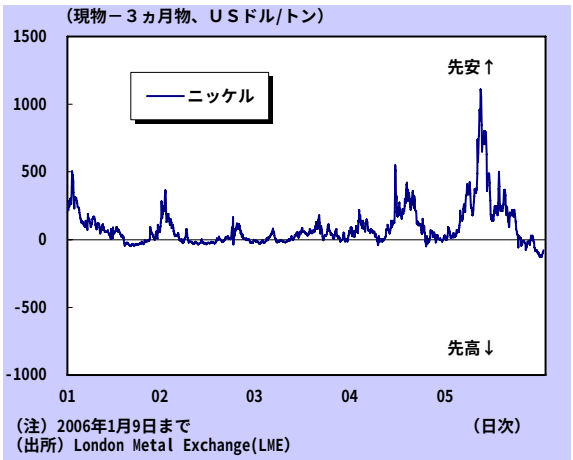
図表５．ニッケル

現物価格とＬＭＥ指定倉庫在庫の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

④亜鉛～高値を更新し大幅上昇が続く

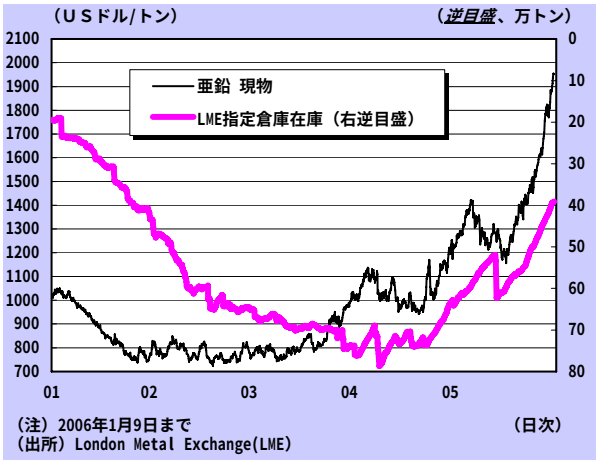
亜鉛相場は 12 月も大幅上昇が続き、史上最高値を更新した。在庫は、2001 年 10 月以来の低水準にまで減少してきている。

大幅上昇の一因には、中国で精錬所の事故が相次いでいることがある。12 月に中国第 3 位の亜鉛精錬所から有害物質が河川に流出したのに続き、1 月には中国最大の精錬所でも同様な事故が発生した。精錬所が閉鎖される可能性があるとの見方が、亜鉛価格の上昇につながっている。また、メキシコで停電により生産が停止したことも、相場上昇要因となった。

もっとも、一時的な供給制約要因だけではなく、中長期的にも亜鉛の需給はタイトである。主たる用途である自動車や電気機器のメッキ向け需要の拡大が続く一方で、当面、精錬所の新設などによる大幅な供給力の拡大は見込まれておらず、2005 年に続き、2006 年も需要超過の状態が続くとの見方が強まっている。

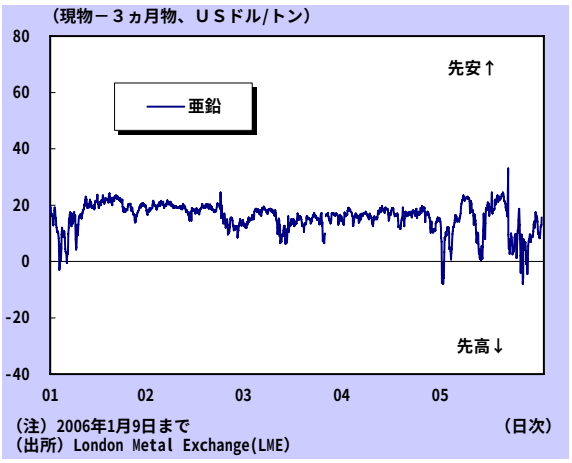
図表６．亜鉛

現物価格とＬＭＥ指定倉庫在庫の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

現先スプレッド（現物－3ヵ月物）の推移



（注）2006年1月9日まで
（出所）London Metal Exchange(LME)

※本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
また、掲載された意見・予測等は資料作成時点での判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。